

8、低音弦を押える。(その-1)

- 譜例-30-a,b,を練習しながら、もう一つ練習しておいて下さい。
これは、メロディー音が長く伸びているときに、低音伴奏が動く場合の練習です。

- * 先ずP指だけで譜例-30-aを練習し、迷わなくなってから譜例-30-bを練習します。
ギターは、低音伴奏だけでもスムーズに弾くにはなかなかホネの折れる楽器です。しかも、聴いている人がいるとして“カッコ良く”聴かせられる伴奏にしたいと思うと、さらにややこしい作業が必要になります。
しかし、だんだん楽しかったり、充実感を感じたりしてきているはずです。
もうひと頑張り練習をしてみてください。

- 「荒城の月（低音伴奏付き）」の後半はひくことができたでしょうか？
譜例-31に前半から続けておきますから、歌を思い出すようにして練習しましょう。
各段の終わりの小節の音が変わっています。
同じ音をくり返すより流れが良く感じられたら、確実に技術が向上していると言えます。

荒城の月

(低音伴奏付き／一応ソロスタイル)

- * 2弦の「レ」は(4)としているように、小指で押さえることが多くなります。